様式1 客観的評価指標による事業採択の前提条件、事業の効果や必要性の確認の状況

事業名	九州横断自動車道長崎大分線(長崎~長崎多良見)
事業主体	西日本高速道路㈱

●事業採択の前提条件を確認するための指標

指標チェックの根拠		指標チェックの根拠	
前提条件	事業の効率性	■ 便益が費用を上回っている	費用便益比(B/C)=1.6 経済的純現在価値(B-C)=908億円 経済的内部収益率(EIRR)=8.2%

●事業の効果や必要性を評価するための指標

政策目標		指 標 (対象となる指標のみ記載。効果が確認されるものは□を■に変更)	指標チェックの根拠
円滑なモティの確		● 並行区間等の年間渋滞損失時間及び削減率	推計年度(H42) 削減量 1(百万人・時間/年) 削減率 0.2% 定量的評価指標の算出方法(案)準用
		■ 並行区間等における混雑時旅行速度が20km/h未満である区間の旅行速度の改善が期待される	国道34号:勝山町等(18.4km/h)
		並行区間等に、当該路線の整備により利便性の向上が期待できるパス路線が存在する又は新たなパス路線が期待できる	長崎市~長崎空港: 43分⇒33分 (10分短縮) 暫定2車線供用時点で、1日あたり90便(長崎道ルート)が当該区間を運行
		□ 新幹線駅へのアクセス向上が見込まれる	
		■ 第一種空港、第二種空港、第三種空港もしくは共用飛行場へのアクセス向上が見込まれる	長崎市~長崎空港: 43分⇒33分(10分短縮)
物流効率援	単化の支	■ 特定重要港湾もしくは国際コンテナ航路の発着港へのアクセス向上が見込まれる	諫早市~長崎港: 31分⇒21分(10分短縮)
		□ 農林水産業を主体とする地域から大都市圏への農林水産品の流通の利便性向上が見込まれる	
都市の再	手生	□ 都市再生プロジェクトを支援する事業である	
		□ 三大都市圏の環状道路を形成する	
		□ 市街地再開発、区画整理等の沿道まちづくりとの連携あり	
国土・地トワーク		□ 当該路線が新たに拠点都市間を高規格幹線道路で連絡するルートを構成する	
		■ 当該路線が隣接した日常活動圏中心都市間を最短時間で連絡する路線を構成する	長崎市⇔大村市
		□ 日常活動圏中心都市へのアクセス向上が見込まれる	
個性ある 形成	る地域の	□ 拠点開発プロジェクト、地域連携プロジェクト、大規模イベントを支援する	
		■ I C等からアクセスが向上する主要な観光地が存在する	長崎新地中華街、グラバー園、稲佐山、軍艦島、出島、平和公園 等
		□ 新規整備の公共公益施設へ直結する道路である	

政	策目標	指 標 (対象となる指標のみ記載。効果が確認されるものは□を■に変更)	指標チェックの根拠
	安全で安心でき るくらしの確保	■ 三次医療施設へのアクセス向上が見込まれる	長崎医療センター(大村市) 48分⇒35分(13分短縮)
	安全な生活環境 の確保	□ 並行区間等に死傷事故率が500件/億台キロ以上である区間が存する場合において、交通量の減少により、当該 区間の安全性の向上が期待できる	
	災害への備え	対象区間が、都道府県地域防災計画、緊急輸送道路ネットワーク計画又は地震対策緊急整備事業計画に位置づ ■ けがある、又は地震防災緊急事業五ヶ年計画に位置づけのある路線(以下「緊急輸送道路」という)として位 置づけあり	長崎県の地域防災計画に「第1次緊急輸送道路」として位置づけ
		■ 緊急輸送道路が通行止になった場合に大幅な迂回を強いられる区間の代替路線を形成する	長崎パイパス、国道34号
		■ 並行する高速ネットワークの代替路線として機能する	長崎バイパス
		□ 並行区間等の事前通行規制区間、特殊通行規制区間又は冬期交通障害区間の代替路線を形成する	
4. 環境	地球環境の保全	動力象道路の整備により削減される自動車からのCO2排出量	排出削減量: 0.7万t/年、排出削減率: 0.004%
	生活環境の改 善・保全	● 並行区間等における自動車からのNO2排出削減率	排出削減量:10t/年、排出削減率:0.002%
		● 並行区間等における自動車からのSPM排出削減率	排出削減量:1.0t/年、排出削減率:0.004%
		□ 並行区間等で騒音レベルが夜間要請限度を超過している区間について、新たに要請限度を下回ることが期待される区間がある	
		□ その他、環境や景観上の効果が期待される	
	他のプロジェクトとの関係	■ 他機関との連携プログラムに位置づけられている	長崎県の道づくり基本方針
		□ その他、対象地域や事業に固有の事情等、以上の項目に属さない効果が期待される	

費用便益分析の結果

路線名	事業名	延長	事業種別	現拡・B P・そ の他の別
九州横断自動車道 長崎大分線	長崎~ 長崎多良見	L=11km	高速自動車国道	4車線化

計画交通量 (台/日)	車線数	事業主体
11, 600~12, 800	4	西日本高速道路㈱

① 費 用

	事業費	維持管理費	合 計
基 準 年		平成28年度	
単純合計	990億円	186億円	1, 176億円
うち残事業分	162億円	34億円	196億円
基準年における 現在価値 (C)	1, 298億円	131億円	1, 430億円
うち残事業分	152億円	13億円	165億円

② 便 益

	走行時間 短縮便益	走行経費 減少便益	交通事故 減少便益	合 計		
基 準 年		平成28年度				
供用年		平成3	3 年度			
単年便益 (初年便益)	48億円	4億円	1億円	54億円		
基準年における 現在価値(B)	2,081億円	192億円	65億円	2, 338億円		
うち残事業分	207億円	10億円	7億円	224億円		

③ 結 果

費用便益比(事業全体)	1. 6
経済的純現在価値(事業全体)	908億円
経済的内部収益率(事業全体)	8. 2%
費用便益比(残事業)	1. 4
経済的純現在価値(残事業)	59億円
経済的内部収益率(残事業)	6. 9%

注)費用及び便益の合計は、表示桁数の関係で計算値と一致しないことがある。

④ 感 度 分 析 (残事業を対象)

変動要因	基準値	変動ケース	費用便益比(B/C)
交通量	11, 600~12, 800	±10%	1.2~1.5
事業費	152億円	±10%	1.2~1.5
事業期間	6年	± 1 年	1.3~1.4

事業名:九州横断自動車道長崎大分線(長崎~長崎多良見)

(推計時点 H42年)

				整備なし(A)	整備あり(B)
①新設道路(長崎芒		交通量 ^{※1}	[台/日]	_	12, 500
塚~長崎多8.3	良見):	走行時間※2	[分]	_	8
გ. ა	KIII	走行時間費用※3	[億円/年]		19
	長崎バイ	交通量	[台/日]	26, 100	17, 100
	パス: 13.1km	走行時間	[分]	9	9
	IS. IKIII	走行時間費用	[億円/年]	46	29
	国道251	交通量	[台/日]	37, 100	36, 200
	国理251 号: 9.7km	走行時間	[分]	11	11
		走行時間費用	[億円/年]	80	78
	県道諫早 飯盛線: 10.1km	交通量	[台/日]	23, 900	23, 500
で上る内 m***w**4		走行時間	[分]	15	14
	TU. TKIII	走行時間費用	[億円/年]	66	64
		交通量	[台/日]		
		走行時間	[分]		
		走行時間費用	[億円/年]		
		交通量	[台/日]		
		走行時間	[分]		
		走行時間費用	[億円/年]		
③その他道 16.56		走行時間費用	[億円/年]	58, 648	58, 590

	走行時間費用	走行時間費用	走行時間短縮便益
	整備なし(A)	整備あり(B)	(A - B)
合計:16,609.1km 走行時間短縮便益 [億円/年]	58, 841	58, 781	61

※1: 当該道路内の平均値または代表的な値を記載する。

※2: 配分計算結果を用いる場合と当該道路の代表的な速度から算出する場合がある。 ※3: 費用便益分析マニュアルに従い車種別、区間別に算出したものの合計値である。 ※4: 当該事業により大きな変化が生じる道路について3~5路線程度以内で記載する。

※5: ②主な周辺道路における交通量の予測地点は、事業全体と残事業で同地点において設定する。

事業名:九州横断自動車道長崎大分線(長崎~長崎多良見)



事業名:九州横断自動車道長崎大分線(長崎~長崎多良見)

(推計時点 H42年)

				整備なし(A)	整備あり(B)
①新設道路	(上岭芒	交通量 ^{※1}	[台/日]	9, 700	12, 500
塚~長崎多. 8.3k	良見):	走行時間※2	[分]	10	8
0. JK	XIII	走行時間費用※3	[億円/年]	19	19
	長崎バイ	交通量	[台/日]	19, 200	17, 100
Į į	ペス: 3.1km	走行時間	[分]	9	9
	3. IKIII	走行時間費用	[億円/年]	33	29
	国道251	交通量	[台/日]	36, 400	36, 200
두	号:	走行時間	[分]	11	11
9). 7km	走行時間費用	[億円/年]	78	78
	県道諫早	交通量	[台/日]	23, 600	23, 500
	〒垣誌千 飯盛線: O.1km	走行時間	[分]	14	14
	U. IKM	走行時間費用	[億円/年]	65	64
		交通量	[台/日]		
		走行時間	[分]		
		走行時間費用	[億円/年]		
		交通量	[台/日]		
		走行時間	[分]		
		走行時間費用	[億円/年]		
③その他道 16,567.		走行時間費用	[億円/年]	58, 598	58, 590

			走行時間費用 整備なし(A)	走行時間費用 整備あり(B)	走行時間短縮便益 (A - B)
合計:16,609.1km	走行時間短縮便益	[億円/年]	58, 793	58, 781	12

※1: 当該道路内の平均値または代表的な値を記載する。

※2: 配分計算結果を用いる場合と当該道路の代表的な速度から算出する場合がある。 ※3: 費用便益分析マニュアルに従い車種別、区間別に算出したものの合計値である。 ※4: 当該事業により大きな変化が生じる道路について3~5路線程度以内で記載する。

※5: ②主な周辺道路における交通量の予測地点は、事業全体と残事業で同地点において設定する。

事業名:九州横断自動車道長崎大分線(長崎~長崎多良見)



費用便益分析の条件

事業名:九州横断自動車道長崎大分線(長崎~長崎多良見)

(2)

	•	項目	チェック欄
		費用便益分析マニュアル	_
	算出マニュアル	(平成20年11月 国土交通省 道路局 都市·地域整備局)	•
		その他	
		分析対象期間	50年間
5	分析の基本的事項	社会的割引率	4%
		基準年次	平成27年度
	交通流の	1時点のみ推計	(2030)
	推計時点	複数時点での推計	
		整備の有無それぞれで交通流を推計	
	 推計の状況	整備の有無のいずれかのみ推計	□有 □無
	1年日10万人の	いずれかのみの推計とした理由を記載の推計の場合	
		道路交通センサスをベースとした自動車OD表	
		(三段階推定法)	(H17センサス)
	推計に用いた	パーソントリップ調査をベースとした自動車OD表	
	OD表	(四段階推定法)	
		その他()	
交		無	
通	四水土汉目。	有	
流	開発交通量の 考慮	考慮した開発交通量(トリップ数)	()台トリップ/日
推計	行 思	有の場合のみ考慮した理由を記載	
н		QーV式を用いた配分	
		転換率式を用いた配分	
		QーV式と転換率式の併用による配分	
		均衡配分(リンクパフォーマンス関数を用いた配分)	
		簡易手法	
	配分交通量の	小規模事業である	
	推計手法	簡易手法の 採択理由 山間部海岸部で併行道路が少ない	
		その他()	
		簡易手法の考え方(将来交通量の設定方法等)	
		その他()	
		各回の配分終了時の速度を交通量でウェイト付け	
		して設定	
		採用理由を記載	
	速度設定の		П
	考え方	最終配分の速度 採用理由を記載	
			T
		高規格道路の速度は道路種別・車線当たり交 通量から設定。また一般道の速度は、沿道条	_
		世里から設定。また一板垣の速度は、石垣宋 その他(件·交差点密度等の道路条件を考慮し設定。	-
	I	1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、	I .

(3)

			項目	チェック欄
		考慮しない		
		考慮する		
	仕口立るの		面的に考慮	
	休日交通の 影響		対象路線のみ考慮	
	が音	考慮する 場合のみ	採用した休日係数	() %
		- 3 L 6367	休日係数を考慮した理由および採用した休日係数の考え	方を記載
		考慮しない		•
		考慮する		
		, ,	採用した通行止め日数	() 目
	災害等による		採用した通行止め日数の考え方を記載	A
	通行止めの 影響	考慮する		
	が音	場合のみ	とり止め交通を考慮する	
			とり止め交通を考慮しない場合はその理由、考慮した場合	はその考え方を記載
		考慮しない		
		考慮する		
			採用した冬期日数	() 日
	冬期交通の		採用した冬期日数の考え方を記載	
便	影響	考慮する		
益		場合のみ	冬期の走行速度と交通容量の関係	
の			設定の考え方を記載	
算定				
疋	交通流推計の	ブロック別・耳	車種別走行台キロの伸び率による設定	
正 —	時点以外の	その他		
	便益の算定	()	
		費用便益分	析マニュアルの値を使用	
	車種別時間	独自に設定し		
	価値原単位	算出根拠を添	付すること	
				T
		費用便益分	析マニュアルの値を使用	
	車種別走行	独自に設定し		
	経費原単位	算出根拠を添	付すること	
				T .
	交通事故減少	中央分離帯の	の有無を考慮	
	便益算定	中央分離帯の	の有無を考慮しない	
	走行時間短縮•走	考慮しない		
		考慮する	Maria III ha da see da la see a la	
	事故減少以外の便 益 益	(考慮の場合、 	、算出根拠を添付すること)	
	その他			

事業名:九州横断自動車道長崎大分線(長崎~長崎多良見)

(4)

			項目	チェック欄
		詳細事業計画	画による値を採用	
	事業費	標準投資パタ		
		その他()	
	維持管理費	維持管理費の認	设定根拠を記載	
	推付官埋負	実績値をもと	に設定	
	雪寒費	積雪地域また	とは寒冷地域である	
費		考慮しない		
用		考慮する		
の	ᇄᆉᄽᄱᇒᄳᆂᄼ		事業費を考慮	
算	当該道路整備が 行われない場合		維持管理費を考慮	
定	の費用	考慮する	当該道路整備が行われない場合の費用を考慮した理由及び考え方で	· 記載(対策内容、費用等)
		場合のみ		
			2車線構造継続の際に生じる安全対策費(231億	[円)を控除している
	その他			
	維持管理	費には雪氷作	業費を含んでいる	
4.	その他			

4

4

4

4

4

4

4

4

4

4

186

186

1.3

1.3

1.2

1.1

1.1

1.0

1.0

1.0

0.9

131

費用の現在価値算定表(事業全体)

維持管理費の単純単価の算出

					Ī	維持管理費の単	純単価の算出	
箇所名:九州横断自動	車道!	長崎:	大分線(長	·崎~長崎	多良見)	単価(億円)	延長(km)	単純価値(億
							11	_
<i>在7</i> 77		∓	割戻率	GDP	事業費		維持管理	
年次	年月		0.0000	テフレータ	単純価値	現在価値	単純価値	現在価値
一9年目	Н	6	2.3699	118.8	2	4		
<u> </u>	Н	7	2.2788	117.8	6	11		
<u> </u>	Н	8	2.1911	117.4	16	31		
<u> </u>	Н	9	2.1068	118.3	17	30		
<u> </u>	Н	10	2.0258	117.8	51	88		
<u> </u>	Н	11	1.9479	116.2	59	99		
-3年目	Н	12	1.8730	114.9	63	103		
-2年目	Н	13	1.8009	113.3	87	138		
-1年目	Н	14	1.7317	111.3	98	152		
暫定供用開始年次	Н	15	1.6651	109.6	167	253	3	
1年目	Н	16	1.6010	108.3	10	15	3	
2年目	Н	17	1.5395	106.8	0.5	0.7	3	
3年目	Н	18	1.4802	105.8			3	
4年目	Н	19	1.4233	104.6			3	
5年目	Н	20	1.3686	103.8			3	
6年目	Н	21	1.3159	102.5	1	1	3	
7年目	Н	22	1.2653	100.4	0.7	0.9	3	
8年目	Н	23	1.2167	98.7			3	
9年目	Н	24	1.1699	97.9	0.3	0.3	3	
10年目	Н	25	1.1249	97.5	3	3	4	
11年目	Н	26	1.0816	100.0	10	10	4	
12年目	Н	27	1.0400	100.0	31	32	4	
13年目	Н	28	1.0000	100.0	82	82	3	
14年目	Н	29	0.9615	100.0	126	121	3	
15年目	Н	30	0.9246	100.0	68	62	3	
16年目	H	31	0.8890	100.0	28	25	3	
17年目	H	32	0.8548	100.0	38	32	3	
18年目	Ħ	33	0.8219	100.0	27	22	3	
完成供用開始年次	H	34	0.7903	100.0			4	
20年目	Η̈́	35	0.7599	100.0			4	
21年目	H	36	0.7307	100.0			4	
22年目	H	37	0.7026	100.0			4	
23年目	H	38	0.6756	100.0			4	
24年目	H	39	0.6496	100.0			4	
25年目	H	40	0.6246	100.0			4	
26年目	H	41	0.6006	100.0			4	
27年目	H	42	0.5775	100.0			4	
28年目	H	43	0.5773	100.0			4	
29年目	Н	44	0.5339	100.0			4	
30年目	H	45	0.5339	100.0			4	
31年目	Н	46	0.3134	100.0			4	
	H	40	0.4936	100.0			4	
32年目 33年目	Н	47	0.4746	100.0			4	
		48		100.0				
34年目	H	49 50	0.4388 0.4220	100.0			4	
35年目							4	
36年目	H	51	0.4057	100.0			4	Ī

注1)事業費の投資パターンは、費用便益分析の計算条件として設定した標準的な投資パターンであり、 必ずしも全体の予算制約等を踏まえたものではない。

100.0

100.0

100.0

100.0

100.0

100.0

100.0

100.0

100.0

100.0

100.0

100.0

100.0

-84

906

990

1,298

このため、毎年度の予算の状況や、用地・工事の進捗により、実際の事業展開とは異なることがある。 (投資パターンの変化による費用便益分析結果への影響等については、再評価及び事後評価として 評価を実施。)

注2)評価対象期間最終年において、用地残存価値(割引後の用地費)を控除している。

52

53

54

55

56

58

59

60

61

62

63

64

Н

Н

Н

Н

Н

Н

Н

Н

Η

Н

0.3901

0.3751

0.3607

0.3468

0.3335

0.3207

0.3083

0.2965

0.2851

0.2741

0.2636

0.2534

0.2437

37年目

38年目

39年目

40年目

41年目

42年目

43年目

44年目

45年目 46年目

47年目

48年目

49年目

単純事業費計

費用の現在価値算定表(残事業)

維持管理費の単純単価の算出

_	1211 - 27		
箇所名:九州横断自動車道長崎大分線(長崎~長崎多良見)	単価(億円)	延長(km)	単純価値(億円)
	-	11	_

					- 中間(応11)	11	中心四位(応门)
		割戻率	GDP	事業費	(億円)	維持管理	費(億円)
年次	年度		テフレータ	単純価値	現在価値	単純価値	現在価値
一6年目	H 28	1.0000	100.0	36	36		
一5年 目	H 29	0.9615	100.0	56	53		
一4年目	H 30	0.9246	100.0	30	28		
一3年目	H 31	0.8890	100.0	12	11		
-2年目	H 32	0.8548	100.0	17	14		
一1年目	H 33	0.8219	100.0	12	10		
完成供用開始年次	H 34	0.7903	100.0			0.9	0.7
4年目	H 35	0.7599	100.0			0.9	0.7
5年目	H 36	0.7307	100.0			0.9	0.7
6年目	H 37	0.7026	100.0			0.9	0.6
7年目	H 38	0.6756	100.0			0.9	0.6
8年目	H 39	0.6496	100.0			0.8	0.5
9年目	H 40	0.6246	100.0			0.8	0.5
10年目	H 41	0.6006	100.0			0.8	0.5
11年目	H 42	0.5775	100.0			0.8	0.5
12年目	H 43	0.5553	100.0			0.8	0.4
13年目	H 44	0.5339	100.0			0.8	0.4
14年目	H 45	0.5134	100.0			0.8	0.4
15年目	H 46	0.4936	100.0			0.8	0.4
16年目	H 47	0.4746	100.0			0.8	0.4
17年目	H 48	0.4564	100.0			0.8	0.3
18年目	H 49	0.4388	100.0			0.8	0.3
19年目	H 50	0.4220	100.0			0.8	0.3
20年目	H 51	0.4057	100.0			0.7	0.3
21年目	H 52	0.3901	100.0			0.7	0.3
22年目	H 53	0.3751	100.0			0.7	0.3
23年目	H 54	0.3607	100.0			0.7	0.3
24年目	H 55	0.3468	100.0			0.7	0.3
25年目	H 56	0.3335	100.0			0.7	0.2
26年目	H 57	0.3207	100.0			0.7	0.2
27年目	H 58	0.3083	100.0			0.7	0.2
28年目	H 59	0.2965	100.0			0.7	0.2
29年目	H 60	0.2851	100.0			0.7	0.2
30年目	H 61	0.2741	100.0			0.7	0.2
31年目	H 62	0.2636	100.0			0.7	0.2
32年目	H 63	0.2534	100.0			0.7	0.2
33年目	H 64	0.2437	100.0			0.7	0.2
34年目	H 65	0.2343	100.0			0.7	0.2
35年目	H 66	0.2253	100.0			0.7	0.2
36年目	H 67	0.2166	100.0			0.7	0.1
37年目	H 68	0.2083	100.0			0.7	0.1
38年目	H 69	0.2003	100.0			0.7	0.1
39年目	H 70	0.4000	100.0			0.7	0.1
40年目	H 71	0.1852	100.0			0.6	0.1
41年目	H 72	0.1780	100.0			0.6	0.1
42年目	H 73	0.1712	100.0			0.6	0.1
43年目	H 74	0.1646	100.0			0.6	0.1
44年目	H 75	0.1583	100.0			0.6	0.1
45年目	H 76	0.1522	100.0			0.6	0.1
46年目	H 77	0.1463	100.0			0.6	0.1
47年目	H 78	0.1407	100.0			0.6	0.1
48年目	H 79	0.1353	100.0			0.6	0.1
49年目	H 80	0.1301	100.0			0.6	0.1
合計				162	152	34	13
						_	
単純事業費計				162		34	

注1)事業費の投資パターンは、費用便益分析の計算条件として設定した標準的な投資パターンであり、 必ずしも全体の予算制約等を踏まえたものではない。

このため、毎年度の予算の状況や、用地・工事の進捗により、実際の事業展開とは異なることがある。 (投資パターンの変化による費用便益分析結果への影響等については、再評価及び事後評価として 評価を実施。)

注2)評価対象期間最終年において、用地残存価値(割引後の用地費)を控除している。

遭豐	便益の現在価値算定表(事業全体 ┃ === ┃ === === ===================	(事業全	表(事業全体)	—— ※	所 回	GDP F-,IC'F	箇所名:九州	/横断自動車 	箇所名:九州横断自動車道長崎大分線 非不時間知線個本(億円)	敦(長崎~長崎多良)	崎多良見)		#
松公	7	E1Tच +⊔ሚ (北九州	台もの年次別伸の (北九州ブロック)	*	凯 不 华	イループ		走行時间超	編使値(ほじ)		現在価値		
乗用車類	HED!	小型貨物	普通貨物	全車	(Y		乗用車類	小型貨物	普通貨物	① 計	$(\mathbb{D} \times (\mathbb{A}))$	乗用車類	
15 1.01103		0.98026	1.01954	1.00556	1.6651	109.6	36	9	9	48	23	4	
16 1.01091	_	0.97987	1.01917	1.00553	1.6010	108.3	30	9	2	41	19	8	
1.01080	30	0.97945	1.01881	1.00550	1.5395	106.8	32	9	9	43	62	8	
18 0.99764	34	0.99226	0.99672	0.99652	1.4802	105.8	36	9	9	48	29	4	
19 0.99763	33	0.99220	0.99671	0.99651	1.4233	104.6	37	9	7	20	89	4	
20 0.99762	62	0.99214	0.99670	0.99650	1.3686	103.8	36	9	7	49	19	4	
21 0.99762	62	0.99208	69966 0	0.99648	1.3159	102.5	40	4	7	54	0/	4	
22 0.99761	61	0.99202	0.99668	0.99647	1.2653	100.4	40	7	7	22	69	4	
23 0.99761	61	0.99195	0.99667	0.99646	1.2167	98.7	41	7	7	26	69	4	
24 0.99760	09	0.99189	0.99665	0.99645	1.1699	97.9	45	8	8	09	72	4	
25 0.99760	09	0.99182	0.99664	0.99643	1.1249	97.5	48	8	6	9	74	9	
26 0.99759	59	0.99175	0.99663	0.99642	1.0816	100.0	47	8	8	64	69	2	
27 0.99758	58	0.99169	0.99662	0.99641	1.0400	100.0	47	8	8	64	99	9	
00 0 00750	01	00100	10000	01000	1000	000	7.1	C	0	63	60	4	L

	Ţ	1111	1	Ì			ľ					Ī									
	年度		総走行台もの年次別伸び率)年次別伸(楽	割原率	GDP デンルータ	•	走行時間短縮便益(億円	8便益(億円)				走行絳費減	走行絳書減少便益(億円)	Ê		事故減少便益(億円)	益(億円)	4 0	二 (銀田)
	(基準年)		(北九)	(北九州ブロック)								現在価値				1	現在価値		現在価値	便益合計	現在価値
年次	딛		5 小型貨物	普通貨物	全車	(A)	,	乗用車類	小型貨物	普通貨物	(I)	①×(A)	乗用車類	小型貨物	普通貨物	(S)	(A)×(2)	©	3×(A)	$(1)\sim(3)$	割引率4%
智定供用開始年次14年日	H 12	_	0. 98026	1.01954	1.00556	1.6651	109.6	36	9 4	9	4 48	73	4 0	0.4			_		2	54	82
14E	1 1	1.01091	0.97987	1.01917	1.00550	1.5010		30	n u	G 9	4 4	69	ى 2	5.0			4 4	-	7	40	00
3年日	1 2	- 0	o c	0 00672	0.00330	1 4802		36	9	0 (0	48	67	0	100			9 (4	-	6	54	75
4年目			1	0.99671	0.99651	1.4233		37	9	2	20	68	4	0.4	0.5				2	56	76
5年目			0 99214	0 99670	0 99650	1.3686		36	9	7	49	64	4	0.4				2	2	55	72
6年目			0. 99208	0.99669	0.99648	1.3159		40	7	7	54	70	4	0.5			2 9		2	19	79
7年目	H 22		0.99202	0.99668	0.99647	1.2653	100.4	40	7	7	22	69	4	0.5	1	- 2		2	2	19	77
8年目	Н 23	3 0.99761	0.99195	0.99667	0.99646	1.2167	98.7	41	7	7	26	69	4	0.5	1	2	9 9		2	62	77
9年目	H 24	4 0.99760	0.99189	0.99665	0.99645	1.1699	97.9	45	8	8	09	72	4	0.5	1	9	2 9	2	2	89	81
10年目			0.99182	0.99664	0.99643	1.1249		48	8	6	92	74	5	0.5	1	9		2	2	72	84
11年目		0		0.99663	0.99642	1.0816		47	8	8	64	69	5	0.5	1	9		2	2	72	77
12年目			_	0.99662	0.99641	1.0400		47	ω	8	64	99	5	0.5		9			2	71	74
13年目	H 28	3 0. 99758	0.99162	0.99661	0.99640	1.0000	100.0	47	∞ α	∞ α	63	63	5	0.5		9 9	9 9	2	2	71	71
15年日			0.99133	0.99000	0.99030	0.3013		47	0 00	ο α	63	25.0	ט נכ	0.5					6	1.7	65
16年目			1	0 99657	0 99636	0.8890		47	0 00	ο σ	63	56	5	0.5		9			2	71	63
17年目			t	0.99656	0.99634	0.8548		46	8	80	63	54	5	0.5		9	9		2	70	09
18年目	Н 33		\vdash	0.99922	0.99708	0.8219	100.0	46	8	8	62	51	5	0.5		9		2	2	02	58
年次	H 34	4 0.99810	0.99158	0.99922	0.99707	0.7903			8	8	62	49	5	0.5	1	9	6 5		2	0/	55
20年目		5 0.99810	0.99151	0.99922	0.99706	0.7599		46	8	8	62	47	5	0.5	1	9			1	70	53
21年目				0.99922	0.99705	0.7307		46	8	8	62	45	5	0.5	_	9	6 4	2	1	69	51
22年目				0.99922	0.99704	0.7026		46	8	8	62	43	5	0.5		9		2	1	69	49
23年目				0.99921	0.99704	0.6756		46	8	8	61	42	4	0.5		9		2	1	69	47
24年目				0.99921	0.99703	0.6496		45	8	8	61	40	4	0.5		9		2	1	69	45
25年目				0.99921	0.99702	0.6246		45	8	8	61	38	4	0.5	_	9		2	1	69	43
26年目				0.99921		0.6006		45	8	8	61	37	4	0.5	_	9	6 3	2	1	89	41
27年目			_	0.99921	_	0.5775		45	∞ (88	61	35	4	0.5		9		2	-	89	39
28年目			0.99360	1.00074	-	0.5553		45	∞ (ω (09	34	4	0.5		9		2	-	89	38
29年目			7	1.00074	-	0.5339		44	ω ι	ω (09	32	4	0.5		9 1			-	19	36
30年日			7	1.000/4	0.99412	0.5134		44	/	∞ (09	31	4	0.5		ומ				/9	34
31年日		0.	0 0	1.00074	0	0.4936		44	7	ω «	59	29	4	0.5		5 1		2	- ,	19	33
32年日			+	1.000/4	+	0.4/46		43	/	∞ (66	28	4	0.5		ומ		2	-	99	31
33年日	H 48	99315	0.99339	1.000/4	0.99402	0.4564	100.0	43	,	∞ α	50	27	4	0.5			2 2	2		99	30
35年目		_	+	1 00074	+	0.4220		43	7	0 00	28	24	4	0.5) LC		2	-	99	22
36年目			0.99326	1.00074	+	0.4057		42	7	8	28	23	4	0.5	-	- C	5 2	2	-	65	26
37年目	H 52	2 0.99296	0.99321	1.00074	0.99387	0.3901	100.0	42	7	8	22	22	4	0.5	1	2		2	1	64	25
38年目		3 0.99291	0.99316	1.00074	0.99384	0.3751	100.0	42	7	8	22	21	4	0.5	_	- 2		2	1	64	24
				1.00074	0.99380	0.3607		41	7	8	22	20	4	0.5		- 2	5 2	2	1	64	23
				1.00074	_	0.3468		41	7	8	26	20	4	0.5	_	- 2		2	1	63	22
41年目		0	0	1.00074	o.	0.3335	100.0	41	7	8	56	19	4	0.5	_	- 2		2	1	63	21
42年目			_	1.00074	_	0.3207		41	7	80	26	18	4	0.5		- Ca	5 2	2	-	62	20
43年目			十	1.00074	0.99364	0.3083		40	7	80	55	17	4	0.5		- Ca	2	2	-	62	19
44年目			0.99287	1.00073	-	0.2965		40	7	ω (55	16	4	0.5			- 1	2	- '	62	18
45年目			0.99282	1.00073	_	0.2851		40	/	∞ (55	16	4	0.5		5		2	0	19	17
46年日		о О	_	1.000/3	0.99352	0.2741		39	/	8 (54	13	4	0.4		מו	- '	2	0	19	//
4/年目	79 H	2 0. 99242	0.99272	1.000/3	0.99347	0.2636	100.0	39	,	∞ α	54	14	4	0.4		C L		2	0	19	15
49年日	H 64			1 00073	+	0.233		38	7	0 00	53	13	4	0.4) L.		2	0	09	15
수 타		·		2	2		-	2,119	360	396	2,876	2,081	209	24	31	26	192	6	9	3,230	2,338

(業量
算定表(残
在価値算
便益の現

	学(衛田)	現在価値 割引率4%	11	Ξ	01 9	2	n 0	0	n co	8	7	7	7	7	9	9	9	ıc ı	5	2	5	5	4	4	4	4 <	4 ~	o (*)) C	n (n	က	3	3	2	2	2	7 0	6	2	2	2	2	2	1	-	-	1.3	1.2	224
1		便益合計 (①~(3))	4	14	41	4 5	1 14		1 4	14	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	12	12	12	12	7 1	1 12	12	13	12	12	12	11	11	1	= ;	= =	= =	=======================================	11	Ξ	=======================================	10	10	10	10	10.1	0.01	603
	苗(億円)	現在価値 ③×(A)	0.4	0.3	0.3	0.3	0.3	0 0	0.3	0.3	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.12	0.11	0.10	0.10	0.09	0.09	0.09	0.08	0.08	0.07	0.07	900	0.06	90:0	90'0	0.05	0.05	0.05	0.05	0.04	0.0	0.0	7
	事故減少便益(億円)	@		0.4	0.4	0.4	0.4		0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	4.0	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	4.0	0.4	0.4	0.4	0.4	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	20
		現在価値 (A)×②	0.5	0.5	0.5	0.9	0.4	5	0.4	0.4	0.4	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.1	0.14	0.14	0.13	0.12	0.12	0.11	0.11	0.10	0.10	60.0	0.08	0.08	0.08	0.07	0.07	0.07	90.0	90.0	0.1	0.1	10
		(2)		0.7	0.7	7.0	0.0	9.0	9.0	9.0	9.0	9.0	9.0	9.0	9.0	9.0	9.0	9.0	9.0	9.0	9.0	9.0	9.0	9.0	9.0	0.0	0.0	0.5	9.0	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.4	28
	走行経費減少便益(億円)	普诵昝物	-0.1	-0.1	-0.1	1.0-	-0-1	- 6	-0.1	-0.1	-0.1	-0.1	-0.1	-0.1	1.0-	1.0-	-0.1	-0.1	-0.1	-0.1	1.0-	-0.1	-0.1	1.0-	-0.1	-0.1	-0-1	-0.1	10-	-0.1	-0.1	-0.1	-0.1	-0.1	-0.1	-0.1	-0.1	-0.1	-0.1	-0.1	-0.1	-0.1	-0.1	-0.1	-0.1	-0.1	-0.1	-0.1	-4
	走行経費減	小型貨物	0.1	0.1	0.1	0.10	0.12	0.12	0.12	0.12	0.11	0.11	0.11	0.11	0.11	0.11	0.11	0.11	0.11	0.11	0.11	0.11	0.11	0.11	0.10	0.10	0.10	0.10	010	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.09	60.0	600	60.0	60.0	60'0	60'0	0.09	60'0	60'0	0.09	0.09	0.00
		乗用車類		9.0	9.0	0.0	0.0	0.0	9.0	9.0	9.0	9.0	9.0	9.0	9.0	9.0	9.0	9.0	9.0	9.0	9.0	9.0	9.0	9.0	0.5	0.0	0.0	0.5	50	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.4	27
崎多良見)		現在価値 ①×(A)	10	10	6	6	s 0	0	0 00	7	7	7	9	9	9	G -	ç	5	5	5	4	4	4	4	4	5	0 6	6	5	3 8	3	2	2	2	2	2	7	6	2	2	2	-	-	1	1	-	1.2	1.1	207
自動車道長崎大分線(長崎〜長崎多良見		÷.		13	13	61	2 5	2 5	13	12	12	12	12	12	12	71	12	12	12	12	12	21	= ;	П	= ;	= =	= =	11	11	= =	=	11	11	10	10	10	01 0	01	10	10	10	01	10	10	6	6	9.3	9.7	555
道長崎大分	時間短縮便益(億円)	普诵倡物	0	0	0	0			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	Û	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0.1	3
	走行時間短	小型貨物		2	2 0	7	7 6	1 0	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	7	7 6	7	6	2	2	2	2	2	2	2	7 0	7	-	-	-	-	-	-	1	-	1.4	4.1	83
箇所名:九州横断		乗用車類					= =		= =	11	11	10	10	10	10	01	10	10	10	10	10	01			01	6	n 0	6	6							6	ກ c				0	- ∞		8	8	80	7.9	8.7	470
	GDP デルータ					100.0					3 100.0	100.0														100.0							3 100.0				100.0							7 100.0	3 100.0	Ì		100.0	
	割戻率	€		_		0./020	1	4			0.5553			4		4	4	-		_	-		_		-	0.3083	1		+					_	_		0.1926	0.1032	0 1712			-		0.1407				0.1203	Ш
	MI	物 全 重	0	0	+	0.99/04	╁	†				74 0.99416	0		\dashv	+	7	0 0	_	-	\dashv	+	+	+	+	72 0 00364	+	+	٠	╁	╫	0	73 0. 99330	_	o'	+	73 0.99311	+	+	+	0	H	0	0	72 0.99266	o.		72 0.99249	_
事業)	年次別伸び ³	プロック) 皆物 普诵 皆物	o I	0	-	+	23 0. 9992	+	+		360 1.00074	356 1.00074	1	\dashv	\dashv	+	+		,_	- †	\dashv	+	+	+	. †.	292 1.00074	+	╁	+	1.	+	-	250 1.00073	-	-	+	226 1.000/3	+	H	+	-	H	ļ.,	1	169 1. 00072	7	_	1.000/2	_
定表(残量	総走行台キロの年次別伸び率	(北九州ブロック) 乗用重額 小型貨物 ・		0	_	+	0.99009 0.99129	o c	\top	0	99338 0.99360	9333 0.99356	0	_	0 0	7	1	0.			\dashv	0	+	+	T	\top	0.99239 0.99267	+	T	╁	0	0	9219 0.99250	_	o.	7	0.99193 0.99226	+	t	1	0	+				0		0.9910/ 0.9914/	
価値算,	年度総		34 (35	36 0.	30	30	8	41 0	42 0.	43 0.	44 0.99333	45 0.	46 0.	47	48	49	50 0.	51	52	53	54	22	96	57	200	90	61	69	63	64 0	65 0		67 0.	.089	69 0.	71	72	73	74 0	75 0	9/	77	78 0.	79 0.	80	81	82	00
便益の現在価値算定表(残事業)		年次	年次 H		2年日 日			1 1 1			9年目 H	10年目 H		12年目 H			H 田井CL			18年目 H		20年日 日本(2)			23年目 H		1 日十57					31年目 H					36年日 日							44年目 H		46年目 H		48年日 日	11